

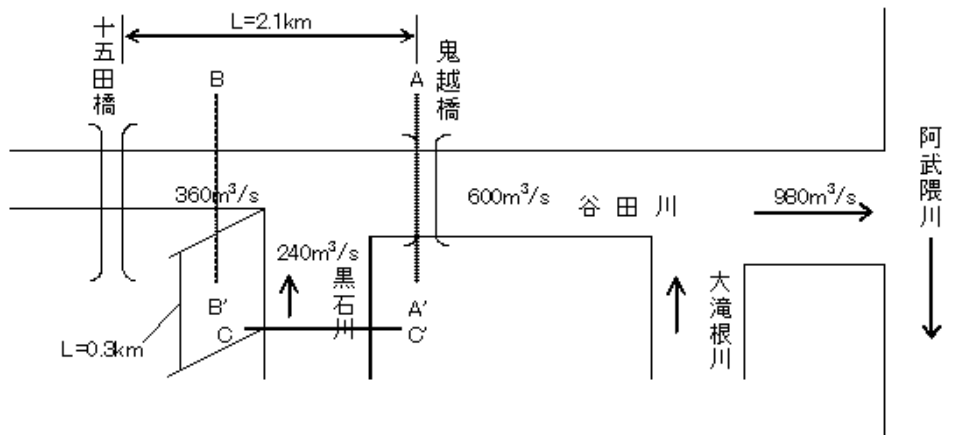
谷田川流域におけるこれまでの治水対策について

令和4年10月17日
第1回逢瀬川流域水害対策検討会
第1回谷田川流域水害対策検討会

谷田川について、市道（久保橋）から市道（鬼越橋）上流側までの約1.9km区間において、昭和38年度から小規模河川改修事業が実施され、昭和58年度には概成した。

その後、昭和61年8月の台風10号により甚大な被害を受けたことから、阿武隈川合流部から市道（久保橋）までの約4.2km区間において、河川激甚災害特別緊急事業により河川改修が実施され平成2年度に完了している。

谷田川上流は、鬼越橋から十五田橋間のL=2.4km（黒石川含む）を河川整備計画に位置付け、河川改修事業を進めている。



計画流量配分図(谷田川)

引用：「一級河川阿武隈川水系 郡山圏域河川整備計画」（福島県 平成18年）

河道掘削・堤防強化



谷田川流域における治水対策(一級河川 谷田川改修)

福島県

河川整備計画 谷田川 L=2.4km

重点整備区間 L=1,600m

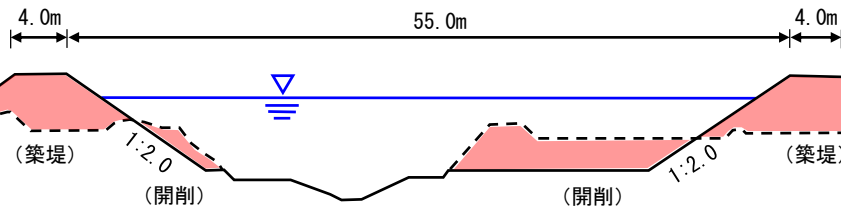
30ha(H9~)

枝川取付 黒石川 L=280m

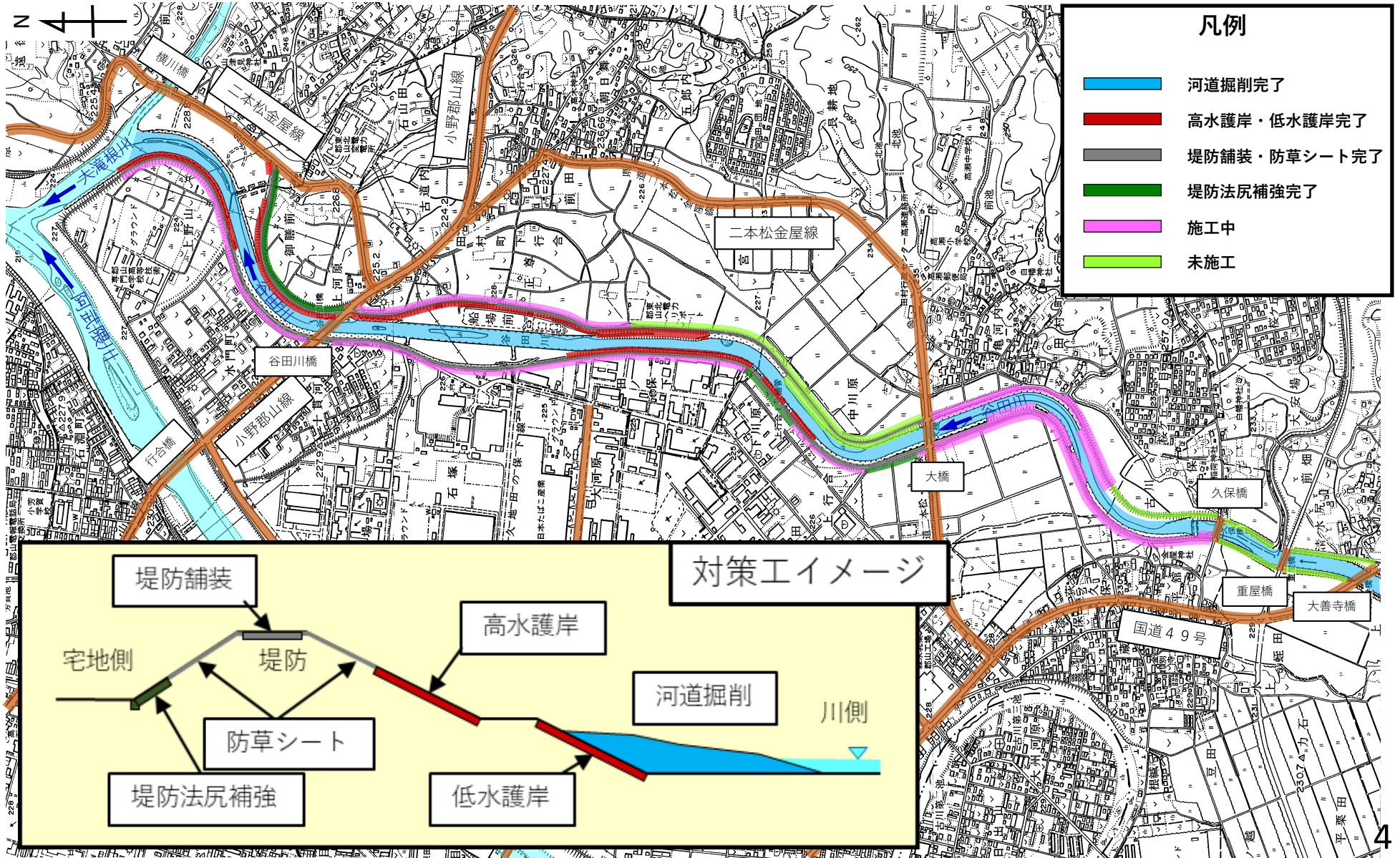
浸水区域
S61.8.4~5 台風10号



標準横断面図

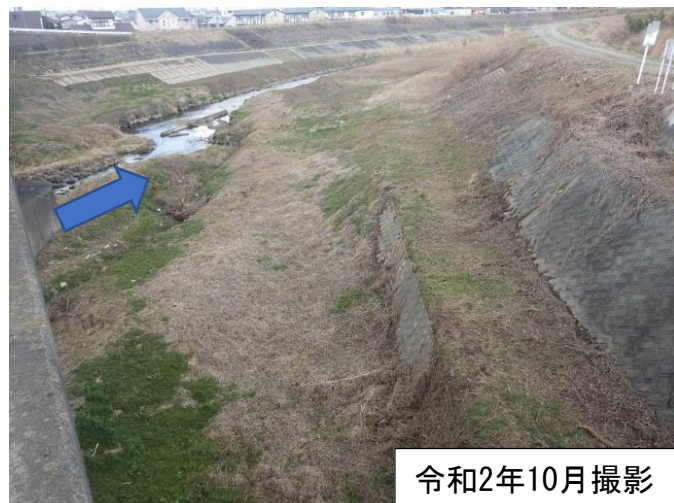


谷田川における河道掘削及び堤防補強状況 ※国道49号より下流4.62km

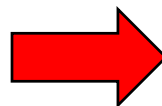
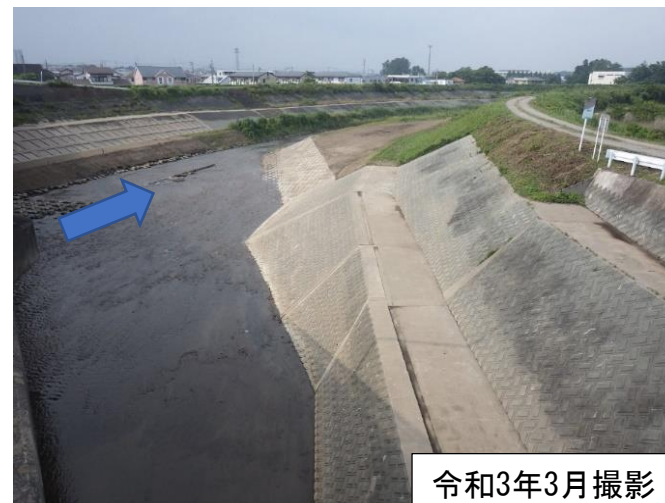


谷田川における河道掘削状況 (田村町下行合地内)

河道掘削前



河道掘削後

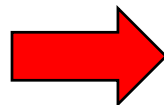


谷田川における河道掘削状況 (田村町金屋地内)

河道掘削前

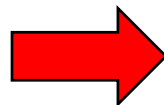


河道掘削後



谷田川における堤防補強状況 (田村町下行合地内)

堤防補強 (護岸工) 前



堤防補強 (護岸工) 後

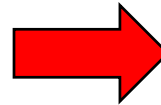


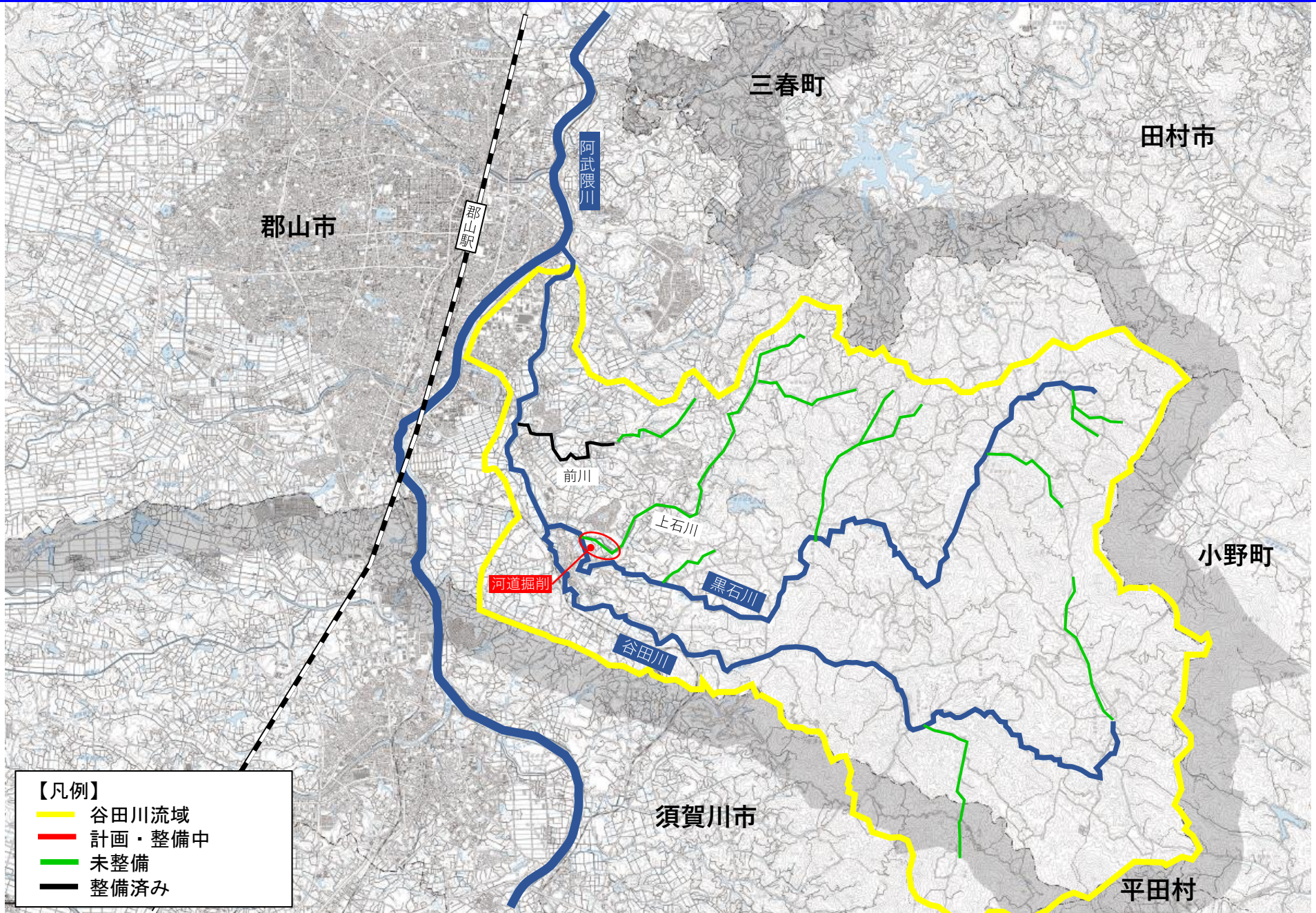
谷田川における堤防補強状況 (田村町下行合地内)

堤防補強 (護岸工) 前



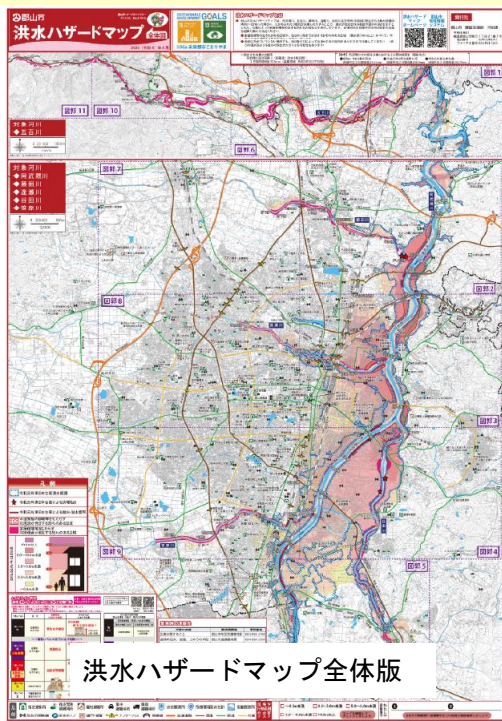
堤防補強 (護岸工) 後



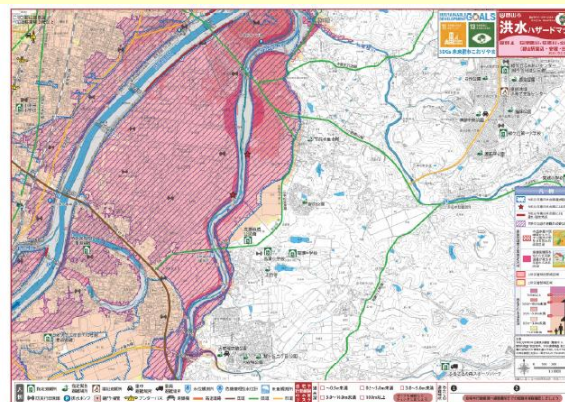


【郡山市洪水ハザードマップについて】

- 本市では1997年12月に最初のハザードマップを作成し、4回の改訂を行っている。
- 今年4月に市内の全世帯、事業所、学校等へ配布(約16万部)
- 洪水ハザードマップ全体版・地区版を配布



洪水ハザードマップ全体版



洪水ハザードマップ地区版



洪水ハザードマップ情報面

- 洪水浸水想定区域が公表されている河川
 - 国管理河川：阿武隈川
 - 県管理河川：逢瀬川、五百川、藤田川、笹原川、谷田川、桜川
 - ※桜川は令和5年度に追加予定

農地・農業用施設を利用した谷田川流域での治水対策の取り組み

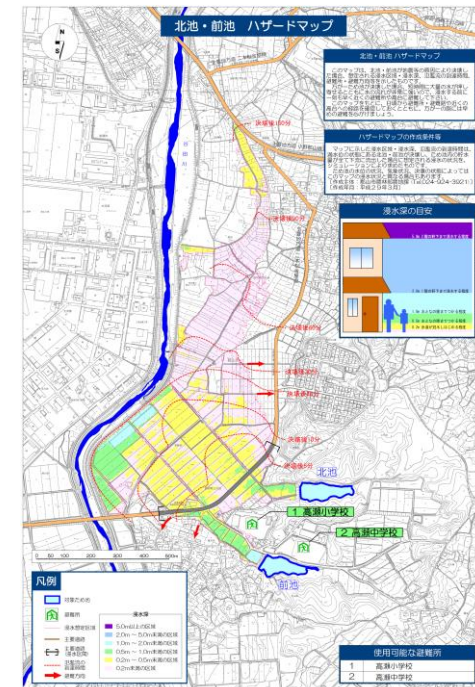
谷田川の上流域には、水田が広がり、多くの農業用ため池が存在している。これらの農地・農業用施設の多面的機能を利用して、あらゆる関係者協働の取り組みである「流域治水」を推進する。

ソフト対策

本市では、「ため池」の防災・減災対策を図るため、逢瀬川流域の農業用ため池8箇所、谷田川流域の農業用ため池30箇所、流域外の農業用ため池80箇所、計118箇所のハザードマップを作成しました。

このハザードマップは、地震等により、万が一、ため池が満水状態で決壊した場合の浸水が予想される範囲とその深さ、洪水が到達するまでの時間を表示し、市民の皆さんの防災意識の向上や避難行動に役立てていただくことを目的としています。

ハザードマップの例 (北池、前池)



ため池ハザードマップ (谷田川流域 30池)

郡山市
18箇所

東部
土地改良区
12箇所

<更なる防災啓発の推進>

- 「わが家の防災ハンドブック」などを活用し、更なる防災啓発を推進

保存版

わが家の防災ハンドブック

自分と家族の安全を守る
~いつもの備え、いざ!行動~

緊急時の連絡先	
火事・地震 119番	警察 110番
防災・避難情報特報	防災危機管理課 924-2161
道路の閉鎖、冠水、除雪、土の崩落	道路維持課 924-2301
河川の溢れ、護岸の崩壊	河川課 924-2701
下水道の溢れ	下水道課 932-7663
水道の断水、漏り水	水道維持課 平日 932-7642 休日 932-5236
農作物の被害	農産物振興課 924-3761
農道の被害	農地課 924-3921
林道の被害	林業振興課 924-2231
大規模災害時専用電話	災害対策本部 924-2999
火災・地震・救助のテレフォンサービス	郡山市地方広域消防庁 933-4000
警察、電柱・電線の故障	郡山地方広域消防庁 0120-179-366 （119）消防本部 943-8585
ガス漏れ、メーターの故障等	ガス課(体) 932-3333

郡山市

災害に対する日頃の備えと、いざ災害が起きた際にどうすればよいのかをまとめた「わが家の防災ハンドブック」

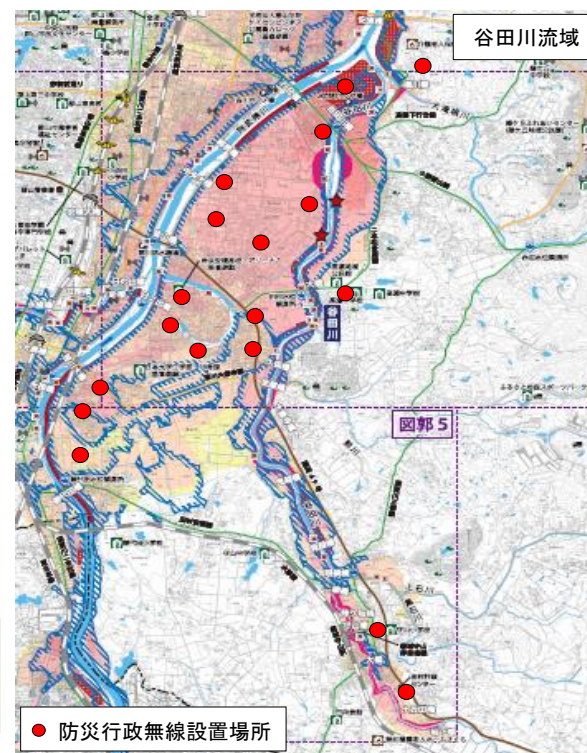
<防災情報の発信力強化の推進>

- 多様な手段による情報発信力の強化

- NTTドコモ、au、ソフトバンクに加え、楽天モバイルにも対応した緊急速報メール（エリアメール）送信体制を整備
- 視覚障がい者を対象に「避難情報電話配信サービス」を開始(R4.9~)
- 既存情報伝達ツールの周知
- 防災メールマガジンなどプッシュ型情報発信ツールの登録促進

- 新たな浸水ハザードエリアに対応した情報発信力の強化

- 新たな浸水想定エリアを踏まえた、防災行政無線の整備を検討
- 防災行政無線を補完するための、地上デジタル放送波を活用した災害情報伝達手段の検討



<p>防災(防疫)ウェブサイト</p> <p>防災(防疫)専用のウェブサイトです。 R/FID https://bousai.koriyama-fukushima.jp/ R/FID: スマホ以外の携帯電話 https://bousai.koriyama-fukushima.jp/sp/</p>	<p>防災行政無線</p> <p>市内の小中学校や公民館、公園などに設置した屋外スピーカーから放送を流します。 ※お住まいの地域や気象条件により聞きとりにくい場合は他の配信手段で内容をご確認ください。</p>
<p>メールマガジン</p> <p>防災ケアサイト内の「防災メールマガジン」から登録いただくことができます。 R/FID https://bousai.koriyama-fukushima.jp/contact2 R/FID https://bousai.koriyama-fukushima.jp/sp/mag/</p>	<p>コミュニティFM放送</p> <p>「郡山コミュニティ放送(FM79)」から放送します。 ※番組放送中でも強制割込みで災害情報をお知らせします。 周波数・・・FM79.1MHz</p>
<p>SNS(フェイスブック、ツイッター)</p> <p>フェイスブック、ツイッターに登録されている方が「いいね!」や「フォロー」していただくことで利用できます。</p>	<p>テレビ(NHKデータ放送)</p> <p>NHKのデータ放送で確認できます。 リモコンの「dボタン」を押すとL字画面に切り替わります。</p>
<p>電話ガイダンス</p> <p>災害時などには、災害情報などの防災行政無線の内容を新着順に電話でお知らせします。 ※防災行政無線の放送が無い場合、注意喚起などの行政情報をお知らせします。(ほろい 郡山) 【フリーダイヤル ☎ 0120-131-963】</p>	<p>スマ保 災害時ナビ</p> <p>災害時に役立つスマホアプリです。 ※スマホのGPS機能を使って現在地情報を取得し周辺の避難場所等が表示されます。 ※現在地から避難場所までのルートを表示したり、避難場</p>
<p>緊急速報メール</p> <p>NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイルの携帯電話に送信されます。 ※情報は発信時点で市内にいる方に配信されます。 ※機種により設定が必要なものや受信できないものがあります。</p>	<p>VACAN</p> <p>各避難所の位置や開設状況、リアルタイムの混雑状況を確認できます。</p>

自然災害による停電に備えましょう

テレビのデータ放送(ドボタン)による災害情報の確認方法

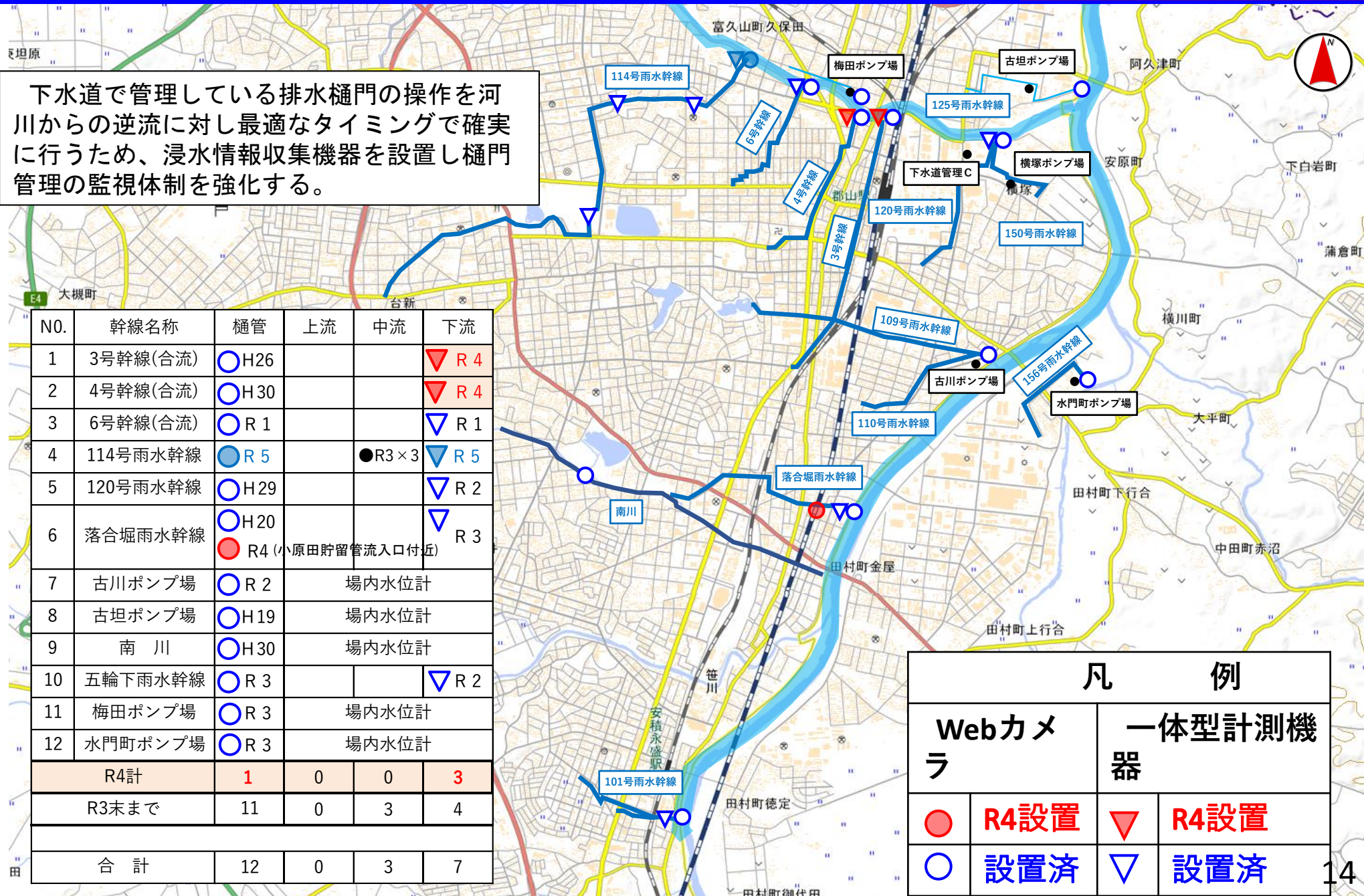
雨水流出抑制施設



<p>浄化槽転用 (工事費の2/3) 【一般住宅】建物1棟につき1基まで 1基当り25万円 【事業所等】建物1棟につき1基まで 1基当り40万円</p>	<p>1,846基</p>	<p>各施設合計貯留量 約4,560m³</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助対象区域は、公共下水道全体計画区域内 ・実績は、平成8年度～令和3年度までの累計基数 ・小学校プール(2.5m×1.1m×1m=2.75m³)換算：約16個分
<p>雨水浸透ます (工事費の2/3) 建物1棟につき4基まで 1基当り2.5万円</p>	<p>78基</p>	
<p>雨水貯留タンク (購入費の2/3) 建物1棟につき1基まで 1基当り4万円 (1基当り100L以上(付属品含))</p>	<p>143基</p>	

※設置基数等R4.3.31現在 (逢瀬川・谷田川流域以外も含む)

下水道で管理している排水樋門の操作を河川からの逆流に対し最適なタイミングで確実にを行うため、浸水情報収集機器を設置し樋門管理の監視体制を強化する。



N0.	幹線名称	樋管	上流	中流	下流
1	3号幹線(合流)	○H26			▼ R 4
2	4号幹線(合流)	○H30			▼ R 4
3	6号幹線(合流)	○R 1			▼ R 1
4	114号雨水幹線	●R 5		●R3×3	▼ R 5
5	120号雨水幹線	○H29			▼ R 2
6	落合堀雨水幹線	○H20 ●R4 (小原田貯留管流入口付近)			▼ R 3
7	古川ポンプ場	○R 2		場内水位計	
8	古坦ポンプ場	○H19		場内水位計	
9	南川	○H30		場内水位計	
10	五輪下雨水幹線	○R 3			▼ R 2
11	梅田ポンプ場	○R 3		場内水位計	
12	水門町ポンプ場	○R 3		場内水位計	
R4計		1	0	0	3
R3末まで		11	0	3	4
合計		12	0	3	7

凡 例			
Webカメラ		一体型計測機器	
●	R4設置	▼	R4設置
○	設置済	▽	設置済

○郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン 2014(平成26)年度～2022(令和4)年度

◆平成22年7月6日 ゲリラ豪雨発生

郡山駅周辺で1時間あたり74mm

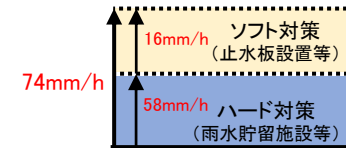
被害状況: 床上浸水 62戸 床下浸水141戸



◆平成26年9月9日 国の「100mm/h安心プラン」登録

・河川事業(国・県・市)と下水道事業(市)が連携

・74mm/hの降雨に対し床上浸水を防ぐ



浸水対策の効果

麓山調整池(令和元年6月18日から暫定供用)

令和元年5月15日(水)	令和元年6月23日(日)
10分間雨量20mm 1時間雨量33mm	10分間雨量18mm 1時間雨量33mm
通行止め1箇所	通行止め0箇所 同程度の雨だったが浸水が軽減

麓山調整池の供用開始後

1. 「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

国(福島河川国道事務所)

- 令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、**流域全体で甚大な浸水被害となった。**
- 今後、**関係機関が連携し、ハード整備・ソフト対策が一体となった流域全体における総合的な防災・減災対策を行うことにより、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す。**

①河川における治水対策の推進

【ハード整備】約1,840億円

- 観測史上最高水位を更新するほどの大規模な洪水により、本川・支川で越水・溢水、堤防決壊、内水氾濫等が多数発生
- 本川の水位を低下させる対策、支川における堤防強化等の治水対策を推進

<主なメニュー案>

- ・国・県管理河川の堤防決壊箇所等、被災した河川管理施設の「災害復旧」の推進
- ・現在 実施中の「堤防整備」等の早期完成
- ・「河道掘削、樹木伐採」等の推進、「河川整備計画」に位置づけられている「河川の水位を低下させる対策」等の順次検討・着手
- ・本川の背水影響が及ぶ支川等の「堤防強化」、「準用河川」の整備促進
- ・内水が顕著な河川等における「排水機能の強化及び耐水化」
- ・既存ダムの洪水調節機能強化



98.6k 左岸堤防決壊箇所(須賀川市)

相互に連携

施設整備計画を踏まえた避難計画等

ソフト対策

②減災型都市計画の展開

- 沿川都市の都市化の進展により低平地の新興住宅地等での浸水リスクが顕在化

→沿川地域における住まい方、まちづくりの工夫の推進

<主なメニュー案>

- ・浸水リスクを考慮した「立地適正化計画」の展開
- ・支川や内水を考慮した「複合的なハザードマップ」の作成
- ・「特定都市河川」制度に準じた流域対策(例:雨水貯留施設等)
- ・高頻度で浸水する区域の「災害危険区域」等の指定



下水道事業による雨水貯留施設の例(郡山市)

③地区単位・町内会単位での防災体制の構築

- 本川や支川の氾濫、内水など、地区毎に異なる氾濫形態が避難行動に影響
- 的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進

<主なメニュー案>

- ・支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良
- ・浸水想定区域における「町内会版タイムライン」の策定・普及、訓練の実施
- ・危機管理型水位計の活用による「地区ごとの避難体制」の構築
- ・県管理の水位周知河川及び国管理ダム下流等の「洪水浸水想定区域」の早期公表

④バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

- 本川上流部では、背水が支川の氾濫にも影響
- 本川合流部周辺における支川の減災対策の推進

<主なメニュー案>

- ・本川の背水影響が及ぶ区間への「危機管理型水位計」及び「カメラ」の設置等
- ・本川の背水影響が及ぶ区間に設置した危機管理型水位計と連動した地区ごとの「避難計画」の策定



本川・支川合流部(本宮市)

⑤市町村の実情に応じた減災の取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進

- ・流出抑制・氾濫抑制の取組、住民参加型の防災訓練、マスメディアと連携した情報発信 等

※具体的な対策内容等は、今後の調査・検討等により変更となる可能性があります。

1. 「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

国(福島河川国道事務所)

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化を目指す。

■全体事業費 約1,840億円

■事業種別

○改良復旧事業

国:阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約999億円

事業期間 令和元年度～令和10年度

国:阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約215億円

事業期間 令和元年度～令和6年度

福島県: 約66億円

宮城県: 約18億円

○災害復旧事業

国:阿武隈川上流(福島県内)

全体事業費 約130億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

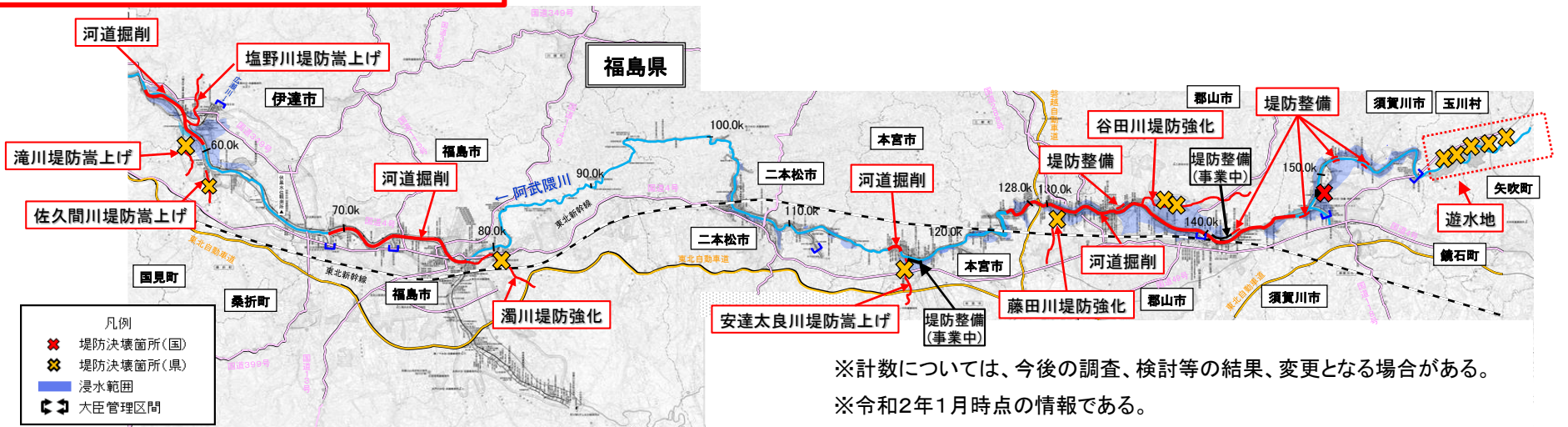
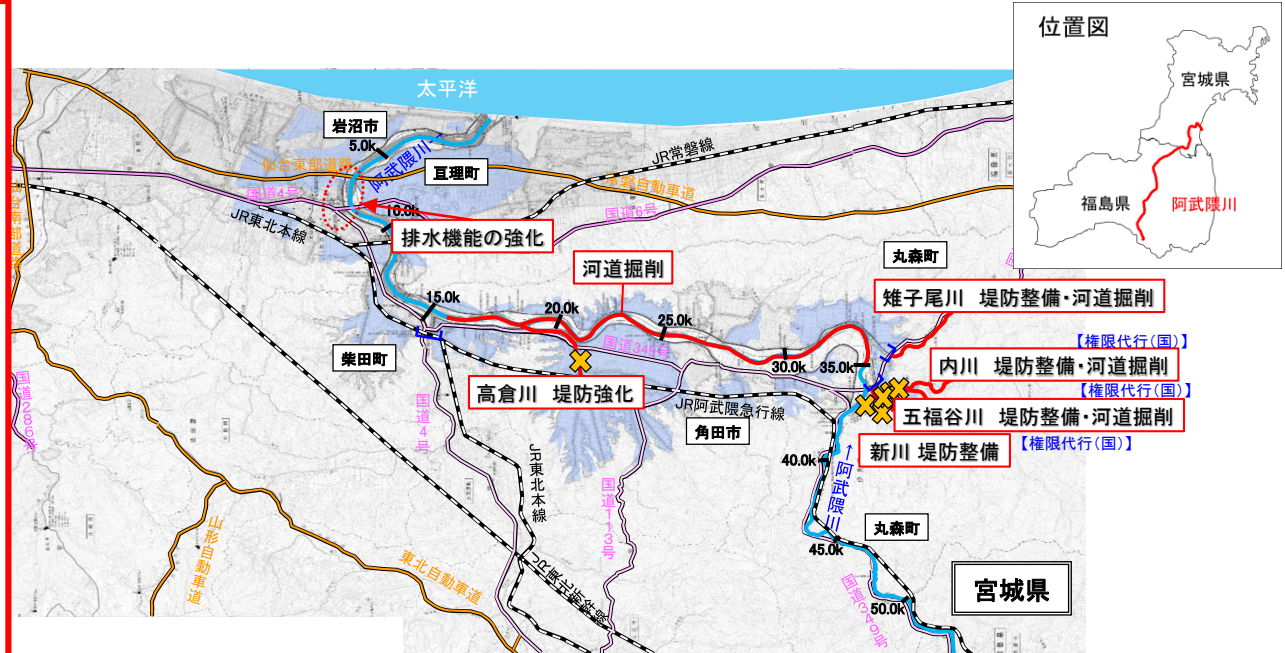
国:阿武隈川下流(宮城県内)

全体事業費 約99億円

事業期間 令和元年度～令和2年度

福島県: 約268億円

宮城県: 約44億円



※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

※令和2年1月時点の情報である。

- 令和元年東日本台風では阿武隈川流域において、既往最大の洪水により堤防が決壊するなど各地で甚大な被害が発生したことから、国、県、沿川市町村により「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」を策定し、ハード・ソフト両面で治水対策を推進している。

阿武隈川本川の主要事業(国)

- 被災した80箇所施設の復旧が完了。
- 河道掘削事業を実施中。全体計画約220万m³のうち、これまで約130万m³(約6割)の掘削を完了。(9月末時点)
今年度末までに約150万m³(約7割)の掘削を目指している。
- 遊水地整備に向け沿川3町村(鏡石町、矢吹町、玉川村)で住民説明会随時行っているところ。施設の詳細な設計や調査などを進めているほか、一部用地協議に着手する予定。



2.郡山市における治水対策

○ **阿武隈川緊急治水対策プロジェクト等**に基づき、郡山市内各地で**治水対策事業を実施中**。

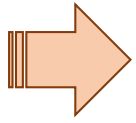
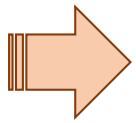


※ 今後の事業進捗によって変更の可能性があります。 19

①河道掘削・樹木伐採（富久山・金屋地区_郡山市）

国(福島河川国道事務所)

- 阿武隈川本川各地で河道掘削を実施中。
- 今年9月末までに全体計画約220万m³のうち、約6割となる約130万m³を掘削。
- 今年度末までに約150万m³(約7割)までの掘削を目指しており、先行して樹木伐採を実施。



②河道掘削実施状況（郡山市日和田町）



③河道掘削実施状況（郡山市阿久津町）



④河道掘削実施状況 (郡山市安積町日出山)



掘削前 (R2.10月撮影)



掘削後 (R4.4月撮影)



⑤堤防強化実施状況（郡山市安原町南川原）



⑥ 築堤実施状況（郡山市田村町徳定・御代田）



3. (参考)阿武隈川上流 流域治水プロジェクトの取り組み

国(福島河川国道事務所)

- 昨今の気候変動による災害の激甚化・頻発化に対応するため、流域全体のあらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)により、流域全体で行う治水対策「流域治水」を推進する阿武隈川上流流域治水協議会を令和2年9月に設立し、「阿武隈川水系流域治水プロジェクト」を策定し、令和3年3月に公表した。
- 以後、プロジェクトについては、進捗の見える化等の更新を図るとともに、流域全体の関係者による総合的な防災・減災対策を実施。

流域治水プロジェクトに関する取り組みの経緯

【日時】	【会議等】
令和2年9月15日・16日	第1回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和3年2月19日・22日	第2回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和3年3月30日	阿武隈川水系流域治水プロジェクトを策定 阿武隈川流域治水宣言の表明
令和3年6月20日	阿武隈川上流 流域治水シンポジウム
令和3年10月28日	第3回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和4年3月11日	第1回 釈迦堂川流域水害対策検討会
令和4年3月15日	第4回 阿武隈川上流流域治水協議会
令和4年3月31日	阿武隈川水系流域治水プロジェクトを更新

協議会メンバー

福島市長 郡山市長 白河市長 須賀川市長
 二本松市長 田村市長 伊達市長 本宮市長
 桑折町長 国見町長 川俣町長 大玉村長 鏡石町長
 天栄村長 西郷村長 泉崎村長 中島村長 矢吹町長
 石川町長 玉川村長 平田村長 浅川町長 三春町長
 棚倉町長 福島県土木部長 福島県危機管理部長
 福島県農林水産部長
 農林水産省東北農政局阿武隈土地改良調査管理事務所長
 林野庁関東森林管理局福島森林管理署長
 気象庁福島地方気象台長
 国立研究開発法人森林整備センター関東整備局長
 国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所長
 国土交通省東北地方整備局摺上川ダム管理所長
 国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所長

協議会の開催状況

【第2回 阿武隈川上流流域治水協議会】 【阿武隈川上流流域治水シンポジウム】 【第1回 釈迦堂川流域水害対策検討会】 【第4回 阿武隈川上流流域治水協議会】



(参考) 「第4回 阿武隈川上流流域治水協議会」開催

～流域治水プロジェクト」のさらなる充実を図るため、流域の市町村が集まり話し合う～

国(福島河川国道事務所)

1. 概要

気候変動による水災害リスクの増大に備え、流域のあらゆる関係者(国・県・市町村・企業・住民等)が協働して、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を計画的に推進するため、流域治水協議会を令和2年9月に設立し、令和2年9月に第1回協議会、令和3年2月に第2回協議会を開催。「阿武隈川水系流域治水プロジェクト」を策定。令和3年3月に公表。令和3年10月に第3回協議会を開催した。

第4回阿武隈川上流流域治水協議会では、昨年3月に公表した「阿武隈川水系流域治水プロジェクト」について取組状況を確認し、追加した「グリーンインフラ」やプロジェクトの取組の「見える化」、「流域治水の具体的な取組」年度末の公表に向けた原案について確認した。

また、流域治水の取組の更なる加速化を進めるべく、釈迦堂川流域水害対策検討会を設立したことを各首長等に説明を行った。また、釈迦堂川流域水害対策検討会朝岡委員長より、流域治水の推進に関する話題提供を頂き、須賀川市における田んぼダムの実証実験の研究結果を踏まえて、流域治水の必要性についてご説明を頂いた。

2. 日時/実施状況

- ▶ 日時：令和4年3月15日(火)13:15-14:15
- ▶ 場所：福島河川国道事務所大会議室 (WEB会議)
- ▶ 出席者：市町村長を含む35名が出席

3. 会議内容

- ・阿武隈川流域治水プロジェクトの更新について
- ・釈迦堂川流域水害対策検討会の設立について
- ・各機関の取り組みについて
- ・阿武隈川上流流域治水協議会の今後の進め方について
- ・流域治水の推進に関する話題提供(日本大学 朝岡准教授)
- ・意見交換

4. 各機関の取組状況内容

【福島市】

- ①災害連携ふくしまスクフォース…災害時の協定先同士による横断的な連携強化を図り、オール福島での体制及び防災強化を目指す。
- ②ハイブリット浸水対策…浸水被害常襲地区での流域対策として、貯留施設の設置・機能増設や排水樋館の改修などを実施し、浸水被害の軽減を図る。
- ③阿武隈川支川を利用した取組について…一級河川荒川の良好な水環境を観光資源へ活用。ふくしま荒川カードや堰堤カードによるPR。

【郡山市】

- ①河川整備による計画的な「流域治水」の推進のため、河川改修及び河道掘削等の浸水対策を進める。
- ②ため池の貯留・洪水調整機能の強化を図り、浸水被害の軽減を目指す。
- ③防災情報伝達機能の強化による災害対策機能の向上を図る。

5. WEB会議開催状況



福島河川国道事務所【大会議室】



福島市(木幡 浩市長)



郡山市【品川 万里市長】



各委員出席状況

(参考)阿武隈川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～本川・支川の抜本的な治水対策と流域対策が一体となった総合的な防災・減災対策～

国(福島河川国道事務所)

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備(見込)</p>  <p>整備率:99% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>21市町村 (令和3年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>22施設 (令和2年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 23箇所 (令和3年度実施分) 砂防関係施設の整備数 2施設 (令和3年度完成分)</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>3市町村 (令和3年12月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 21河川 (令和3年12月末時点) 内水浸水想定区域 1団体 (令和3年11月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>洪水浸水想定区域 避難確保計画 1計画 (令和3年9月末時点) 個別避難計画 1計画 (令和4年1月1日時点)</p>
---	---	--	---	---	--	---

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【宮城県 角田市】
○市道 駅前花鳥線に越水対策工事(止水壁)を設置し、尾袋川からの越水対策を実施することで左開地区への越水流入を防ぎ、避難経路を確保する対策を実施しています。



【福島県 福島市】
○市内を流れる普通河川祓川において、上流部の土地利用変化や、流末にあたる雨水渠が未整備区間のため、大雨による浸水被害が発生していたため、浸水多発地区に雨水一時貯留施設(貯留量 V=約500m³)を設置し、浸水対策を実施しています。



被害対象を減少させるための対策

【宮城県 柴田町】
○令和4年中に立地適正化計画の公表予定
○防災に対する方針等をまとめた防災指針を策定し、災害リスクを踏まえた誘導区域を検討中

最大規模での浸水被害と過去の浸水(内水)被害の両面で災害リスクを詳細に分析し、地域防災計画の検証を行いながら、誘導区域を設定し安全・安心で快適なコンパクトな市街地の誘導・形成を目指す。



【民間企業の取組】
○工場への浸水被害を防ぐために、出入口に止水壁を設置(郡山市)



○立地適正化計画における居住誘導区域内での防災指針の策定(白河市)



被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

【宮城県 柴田町】
○地域における講習会等によりマイ・タイムラインや避難確保計画作成の普及、防災リーダーの育成等を通じて、地域防災力の向上を図る



気象予報士から学ぶマイ・タイムライン講習会(柴田町)

○災害時の一人ひとりの適切な避難行動を普段から考えてもらう取組み(マイ避難ノートの配布)



○平常時・洪水時の河川状況や河川水位の上昇等を把握できるよう、YouTubeライブ配信を開始



福島河川国道事務所
Fukushima Office of River and National Highway

→ 防災 → 河川
→ 砂防 → 道路
→ 入札・契約情報

事業所概要
→ 概要・概要の閲覧
→ 所在地
→ 沿革

【配信映像メニュー】
→ 概要
→ 概要
→ 概要

○上下流連携の促進



【軽トラ市@福島駅前】
上段：令和4年9月
（鏡石町・玉川村）
下段：令和4年8月
（矢吹町）



【阿武隈川上流自治体特産品フェア】
道の駅 伊達の郷りょうぜん(令和2年10月)



【阿武隈川サミット】

○流域治水の啓発、人材育成



(福島市)

(須賀川市)

【パネル展@須賀川市、福島市】



【出前講座】



【タイムライン研修会(桑折町)】

○情報発信の強化

簡易カメラの設置状況

R1.10月以降
73基設置

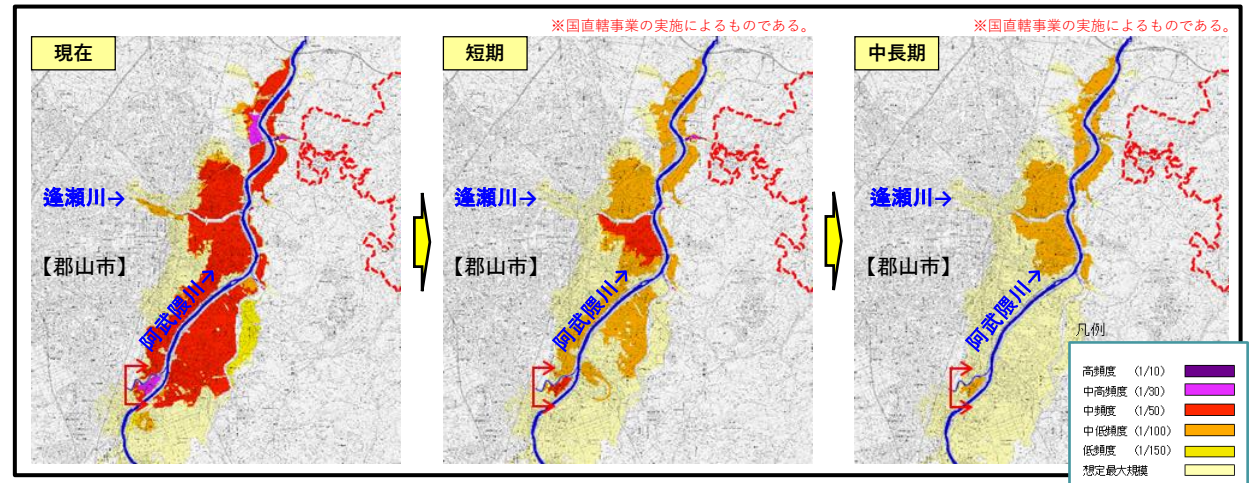
カメラ画像の公開イメージ

現況 阿武隈川 右岸 6.7k

平常時 阿武隈川 右岸 6.7k

【阿武隈川上流区間に簡易カメラを設置】
【川の防災情報の改良(現況・平常時)】

注:国直轄管理河川(R2年7月変更前)からの外水氾濫のみを想定したものであり、県管理河川からの氾濫や内水氾濫を考慮した場合には
浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。



【多段階浸水想定図及び水害リスクマップの公表】

○産学官連携による取り組み

(田んぼダム)

(須賀川市)



【日本大学工学部による田んぼダム実証実験
(須賀川市、郡山市)】

○親水空間の創出【堤防協で夏祭(本宮市)】

石塚貯留管イメージ図

雨水貯留管完成時イメージ図

完成した堤防のライトアップ(本宮市)

【止水壁と地下貯留管(郡山市工業団地)】

【完成した堤防のライトアップ(本宮市)】